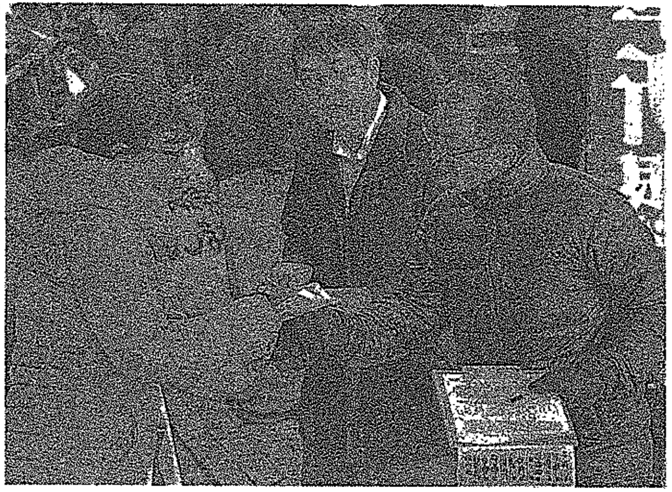
1/20 赤旗

戦争法廃止へ見ているだけでなく行動

2000万署名 私たち本気



戦争法廃止を求める2000万署名を呼びかける人たち＝19日、東京・新宿駅西口

戦争法の廃止を求めて、「2000万署名」への協力を訴える「毎月第3火曜日宣伝行動」が19日、全国各地で行われました。総がかり行動実行委員会が呼びかけているもの。憲法共同センターは、新宿駅西口、四ツ谷駅前など東京都内7カ所で宣伝しました。

都内7カ所いっせいに

新宿駅西口では、約1時間、署名ボードや横断幕などを持って訴えました。各団体の代表らが、宣伝カーに乗り、署名への協力を呼びかけます。

署名に応じた有馬紀子さん（65）は、長野県松本市在住。娘に会うために東京を訪れていました。「どんな理由があっても、戦争は許せません」。先日、地元で戦争法の抗議集会に初めて参加したといいます。「見ているだけではなく『自分たちが行動しなくてはいけない』と、夫と話し合いました。子どもたちのためにも、できることを続けていきたい」

山口県、群馬県、大阪府など、遠方から宣伝に協力しに来た人がいました。

山口県岩国市から来た農家の男性（69）もそのひとりです。「一度は東京で宣伝したかった」。都内にいる知り合いから行動がある場所を聞いて駆けつけました。「地元でも、農業仲間に署名をお願いし、ひとりで100人以上集めています。『ちゃんと話せばみんなわかってくれる』。2000万はとてつもない数ですが、本気で集めきりたい」

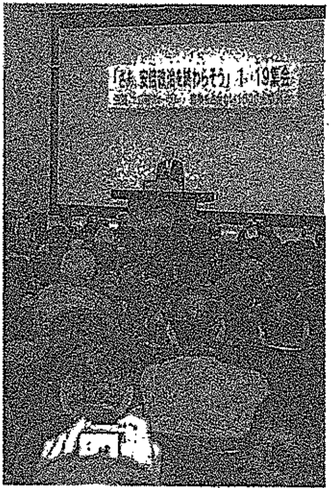
都内7カ所の宣伝には、日本共産党の宮本徹、大平喜信、堀内照文、梅村さえこ、斉藤和子、畑野君枝の各衆院議員が参加し、訴えました。

安倍政治 終わらせよう

都内で集会、会場は満席

夏の参院選で野党が勝利し、安倍政権を退場させようと19日、東京都千代田区にある憲政記念館の講堂で「さあ、安倍政治を終わらせよう1・19集会」が開かれました。主催は、戦争をさせない1000人委員会と立憲フォーラム。会場は満席となり、立ち見の人も出ました。慶応大学名誉教授の小林節さん、SEALDs（シールズ）のメンバーが出席し、発言しました。

小林さんは、参院選では32ある1人区で野党候補が調整をし、勝利することが重要だと指摘。「すべて野党候補が勝利すれば、改憲を防ぐこともできる。焦ることはない。希望を持っていきましょう」と話しました。



「さあ、安倍政治を終わらせよう」1・19集会

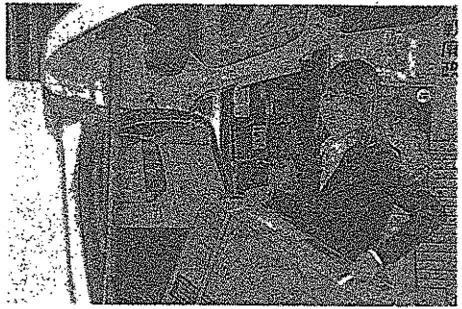
集会で発言する慶応大学名誉教授の小林節さん＝19日、東京都千代田区

主催者を代表して、立憲フォーラムの顧問を務める民主党の江田五月参院議員が「次の選挙で安倍政治の流れを止めよう」とあいさつ。社民党の吉田忠智党首、民主党の国会議員がそれぞれ衆参の国会情勢を報告しました。

日本共産党の小池晃副委員長が参加しました。

平和でこそ商売繁盛

「がんばる業者青年」



学校教材を営業車に積み込む井賀奈保子さん＝東京都練馬区

イマドキ女子 動く

教材販売

東京・練馬区 井賀奈保子さん（32）

東京都練馬区で教材販売をする跡取り、井賀奈保子さん（32）。民商会員の父、真一さん（68）と都内中学校に技術科、家庭科の教材を販売しています。飾り付けたスマホ、ネイルを施した爪、イマドキの女子です。戦争法廃止のたたかいに目覚め、「政治が生活に関わっている」と感じています。

（大串昌義）

転換点は、2015年6月の若者憲法集会に参加して渋谷をデモしたことでした。誘ってくれたのは民商の仲間たちです。初めてSEALDs（シールズ）を見ました。〝多くの若い人たちが立ち上がっている。声を上げなければ日本が危険な方向に進むからだ〟

国会をチェック

それまで自分とは無関係だと思っていた国会中継をテレビで見るようになりました。放送がないときは、ネット中継をチェックするほどです。

戦争法案が衆院本会議で強行採決された7月16日、「どうしても許せない」。午前中に仕事を終わらせて、民商の仲間と国会前に駆けつけました。午後11時まで抗議行動しました。

国会前に行くたびに自身のフェイスブックに動画を上げたり、なぜ武器が必要だと考えるのか話を聞いたりしていました。「シールズがやっていることを自分ができる範囲でしています。誰かが動かないと始まりません」。

本当を知りたい

民商の活動に携わるきっかけは、14年9月に福井県あわら市で開かれた「全国業者青年交流会」に、初めて行ったことです。関わる機会がなかった異業種の業者青年がたくさん参加していました。「楽しく、元気をもらいました」

民商の会員になりました。月1回情勢を話し合う会議に出ました。テレビで報じないこと、本当のことをもっと知りたいと思いました。周りに若い民商の仲間がいました。戦争法の廃止を迫るたたかいで15年11月、開かれた東京商工団体連合会青年部協議会（東商青協）の総会で副議長に選出されました。

「仲間を増やしてもっと元気な民商にする。人の輪を広げたい」。「NO WAR WE NEED JUST PEACE」（戦争はいらない。平和が欲しいだけだ）と書かれた名刺サイズのステッカーをつけた営業車に乗りアピールします。

事業所を兼ねた自宅にいる91歳の祖母を両親と輪番で介護する頑張り屋です。

真一さんは「仕事と業者運動を両立して頑張ってほしい」と期待を込めます。（おわり）

首相なぜ国民に説明しない■多くのデモに出会い驚き 署名した人の思い 東京

19日、東京都内でおこなわれた憲法共同センターの宣伝で、「2000万署名」に応じた人たちの思いを聞きました。

●四ツ谷駅前で

手と足の治療のために千葉市から来たと話す川田京子さん（73）＝自営業＝が、安倍晋三首相には腹が立つと署名しました。「安倍政権の独裁的な判断には納得できない。国民に説明したいと口では言いながら実行していない。どう説明しても戦争に一歩も二歩も踏み込んでいる。国会前行動には足を運べないが、参加している人たちに『ご苦労さま』といいたい。安倍さんが目の前にいたらじかにいいたい。国民の中に入って意見を聞いたのか、第2次大戦で苦しい思いをした人に耳を傾けないのか、と」

営業で通りがかった自営業の宮坂秀一さん（68）＝東京都多摩市＝は、国会前行動に参加する踏ん切りがつかないといいますが、「気持ちは一緒。今の安倍政権の流れを止め、戦争法は廃止してほしい」と話しました。

「足と心臓が悪いので病院に行っている。思うように体が動かない」という新宿区の女性（83）は引揚者だと話しました。「戦争はダメ。憲法を堅持して」

介護のボランティアをしているという立川市の女性（69）は、戦争法廃止を求めて行動する人たちに注目しています。「私はいろいろ経験してきたが、反対する人たちがごく自然に集まっているのは明るいこと。安倍首相はそのことを考えてほしい」

●新宿駅西口で

「戦争法は明確に憲法違反です」。東京都新宿区の男性（70）は手荷物を置いてペンを走らせます。

デモに参加したのは「60年安保の時だけ」。もうデモはなくなってしまったと思っていました。ここ数年、街を歩いていると、何度もデモに遭遇したといいます。「多くの人が行動していて素直に驚いた。体力的に機はもう参加できないが、夏の選挙では、なんとしても自公を少数に追い込むために頑張りたい」と語りました。

「社会人の娘と息子にも、戦争法のことを話し合いました」というのは中野区の女性（69）です。「法律の危なさをわかりやすく伝えるのが難しい。戦争法に限らず、安倍政権が進めている政策には共感できません。今の政治の力関係を変えていきたい」